

**大学等環境安全協議会
実務者連絡会会報
第九号**

平成19年3月

目 次

実務者連絡会から	1
第 22 回技術分科会 実務者連絡会企画プログラム報告	2
第 24 回大学等環境安全協議会第 8 回実務者連絡 会企画プログラム報告	2
第 8 回実務者連絡会総会	3
平成 17 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業報告	4
平成 17 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会決算報告	5
平成 18 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業計画	6
平成 18 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会予算執行計画	8
平成 18 年度実務者連絡会功労賞の授与について	3
平成 18 年度実務者連絡会企画プロジェクトについて	3, 9-11
技術賞候補者推薦のお願い	12
第 9 回実務者連絡会の予定（案）について	13
平成 19 年度実務者連絡会名簿の変更と追加について	14
実務者連絡会申し合わせ	15
平成 19 年度実務者連絡会役員	16
平成 18 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会名簿（地区別）	17

実務者連絡会から

実務者連絡会世話人

武藤 一、平 雅文、鈴木一成、柏木保人

実務者の皆様におかれましては、平成18年度の技術分科会（島根大）、協議会総会・研修会（東京農工大）に出席され、有意義に過ごされたことと思います。

協議会技術分科会・総会研修会での実務者企画プログラムは、理事会の評価も得て、16年度から連絡会の開催方法を変更して実施しております。19年度7月の技術分科会（山形大）では18年度と同様、企画プログラムを盛り込むことが理事会で決定しております。連絡会の総会・技術発表・講演等は発足当初、11月協議会総会・研修会の前日（1日）に行っておりましたが、その後、理事の先生方のご意見と実務者連絡会総会で過半数のご支持が得られたことで、現在の開催形式となっております。

実務者連絡会の構成メンバーは大学等の廃棄物（廃液）処理施設の助手、技術・教務職員・補佐員等、施設部（課）等職員、賛助会員職員など、いわゆる、当該業務の実務にあたっている方々で成り立っております。独法化後の各大学の労働安全衛生に係る（衛生工学）衛生管理者、また、大学等の安全管理、昨年の環境報告書作成についても、センター・施設部系等の連絡会会員が担当している大学等も少なからずあったものと思われます。学内等における処理施設等の業務と同様、実務者の業務も少しずつ多様化してきております。実務者は連絡会会員であると同時に、大学等環境安全協議会会員であります。連絡会に対するご意見をお待ちしております。

なお、下記に協議会会則2条（目的）と連絡会申し合わせ第2項（下線部）を記載します。ご参照下さい。

協議会会則2条（目的）：

「この会は、・・・において、環境・安全マネジメント、安全衛生管理及び環境安全教育を徹底するため、大学等における環境保全施設業務、学生並びに教職員の安全衛生管理業務、教育、研究、医療等の諸活動に伴って使用される化学物質等の管理業務、その結果発生する有害な廃棄物の処理業務、環境安全教育等に携わる教職員が、その連携を密にし、管理の方法、技術及び教育に関する研修並びに環境保全施設、安全管理組織等の管理運営に関する情報を交換し、・・・目的とする。」

連絡会申し合わせ第2項：

「大学等において、廃棄物の処理に関与する技術者を中心とした、・・・が、その連携を密にし、環境安全施設等の管理運営に関する諸情報を交換し、会員相互の・・・を目的とする。」

第22回技術分科会 実務者連絡会企画プログラム報告

大学等環境安全協議会第22回技術分科会において、第8回実務者連絡会の一部として2時間程度の連絡会企画プログラムを実施致しました。下記報告要旨は協議会会報（第24号、平成19年3月）に掲載されます。

日時：平成18年7月28日（金）午前10時～11時50分

場所：島根大学 島根県民会館

議題：

技術報告「PCB、ダイオキシン、アスベストの話題」

1. 大学における化学物質の暴露防止対策

興研（株）労働衛生コンサルタント事務所 岩崎 毅

2. アスベストの調査と対策

NEC ファシリテーズ（株） 立石和男

事例報告「労働安全衛生に基づく「作業環境」の話題」

1. 東北大学における作業環境測定について

東北大学環境保全センター 進藤 拓

2. 浜松医科大学における作業環境測定とその結果への対応

浜松医科大学医療廃棄物処理センター 鈴木一成

3. 理研・和光研究所における事故事例と再発防止策

理化学研究所安全管理部 吉識 肇

第24回大学等環境安全協議会 第8回実務者連絡会企画プログラム報告

大学等環境安全協議会 第9回実務者連絡会を、大学等環境安全協議会研修会第一部として開催致しました。下記講演、ディスカッション要旨は協議会会報（第24号、平成19年3月）に掲載されます。

日時：平成18年11月9日（火）午前10時15分～午後12時00分

場所：東京農工大学 府中グリーンプラザ

議題：

I. 講演

大学と労働安全衛生マネジメントシステムについて

中央労働災害防止協会 井本邦彦

II. パネルディスカッション

「大学等の労働安全衛生に関わる課題と問題点について」

コーディネーター

理研 安全管理部 吉識 肇

秋田大学環境安全センター 武藤 一

京都大学 環境保全センター 真島敏行

愛知教育大学保健環境センター 榊原洋子

筑波大学人事部環境安全管理室 荒井陽一

名古屋工業大学安全管理室 箕浦寿樹

第8回実務者連絡会総会

第8回実務者連絡会総会を下記議題でご審議いただきました。

実務者連絡会功労賞には埼玉大学 奥墨 勇氏が授与いたしました。総会議事につきましては満場一致でご了承いただきましたが、連絡会のあり方等につきまして助言等ございましたら、世話人にご連絡下さいますようお願い申し上げます。

日時：平成18年11月10日（水）午後15時～午後15時30分

場所：名古屋大学 IB 電子情報館 東棟2階 IB 大会議室

議題：

- (1) 平成17年度事業報告及び決算報告
- (2) 平成18年度事業計画及び予算案
- (3) 平成18年度実務者連絡会功労賞の授与について
- (4) その他

平成18年度大環協実務者連絡会企画プロジェクト

1. 特殊廃液処理施設理解推進プロジェクト

代表 新潟大学 大泉 学

2. 大学等における労働安全衛生改善事例の収集と共有化プロジェクト

代表 愛知教育大学 榊原洋子

平成 17 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業報告

・平成 17 年 7 月 29 日 実務者連絡会企画プログラムの実施

第 21 回大学等環境安全協議会技術分科会において実務者連絡会企画プログラムを実施した。

日時：平成 17 年 7 月 29 日（金）午前 10 時～11 時 50 分

場所：徳島大学 長井記念ホール（藤本地区）

議題：技術報告

- ・鉄粉法廃液処理施設におけるセレン系廃液処理の試み

筑波大学環境安全管理室 柏木保人

- ・有機廃液管理体制の確立に向けて

岡山大学保健環境センター環境安全部門 秋吉延崇

事例報告「定期メンテナンスの必要性—既存処理装置の耐用を延ばす—」

- ・濃厚廃液処理装置における定期メンテナンスについて

NEC ファシリテイズ（株） 牟田英明

- ・同和式鉄粉法廃液処理装置のメンテナンスについて

テクノクリーン（株） 小林 満

・平成 17 年 11 月 24 日 第 7 回実務者連絡会を開催

第 23 回大学等環境安全協議会総会及び研修会において研修会第 1 部実務者連絡会企画プログラムを開催した。

日時：平成 17 年 11 月 24 日（火）午前 10 時 15 分～午後 12 時 30 分

場所：名古屋大学 IB 電子情報館 東棟 2 階 IB 大講義室

議題：I. 大学における薬品管理に関する講演

- ・PCB 廃棄物の処理について

日本環境安全事業（株） 村田省三

- ・労働安全衛生マネジメントシステムの概要・改善事例の紹介
興研（株） 労働衛生コンサルタント事務所 岩崎 毅

- ・薬品管理支援システム—TULIP その後—

富山大学水質保全センター 川上貴教

II. パネルディスカッション

「独法化後の実験系廃棄物の自前・外注処理の課題と今後について」

筑波大学 柏木保人、浜松医科大学 鈴木一成、京都大学 真島敏行、
新潟大学 大泉 学、早稲田大学 仲川 広

III. 実務者連絡会総会（午後 15 時 00 分～15 時 30 分）

- ・平成 16 年度事業報告及び決算報告
- ・平成 17 年度事業計画及び予算案
- ・その他

・平成 18 年 3 月 実務者連絡会会報第 8 号発行

平成17年度大学等環境安全協議会実務者連絡会決算報告書

平成18年3月31日

事項	予算額	明細	備考
(収入)			
	円		
前年度繰り越し	483,727		
実務者連絡会活動費	300,000		大学等環境安全協議会より(H.18.1)
預金利息	4		
収入計	783,731		
(支出)			
	円		
第7回実務者連絡会	30,000	30,000	協議会研修会講演謝金(1件)
会報	139,650	109,650	会報印刷代 (会報第8号、150部印刷)
		30,000	会報送付代
銀行手数料	0		
予備費	614,081		
支出計	783,731		

平成18年5月29日

上記のとおり相違ありません。

監査 吉崎 佐知子 印

平成18年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業計画

・平成18年7月28日 実務者連絡会企画プログラムの実施

第22回大学等環境安全協議会技術分科会において実務者連絡会企画プログラムを実施する。

日時：平成17年7月28日（金）午前10時～11時50分

場所：島根県民会館

議題：技術報告「PCB、ダイオキシン、アスベストの話題」

- ・大学における化学物質の暴露防止対策

興研（株）労働衛生コンサルタント事務所 岩崎 毅

- ・アスベストの調査と対策

NEC ファシリテイズ（株）立石和男

事例報告「労働安全衛生に基づく「作業環境」の話題」

- ・東北大学における作業環境測定について

東北大学環境保全センター 進藤 拓

- ・浜松医科大学における作業環境測定とその結果への対応

浜松医科大学医療廃棄物処理センター 鈴木一成

- ・理研・和光研究所における事故事例と再発防止策

理化学研究所安全管理部 吉識 肇

・平成18年11月 9日 第8回実務者連絡会を開催

第24回大学等環境安全協議会総会及び研修会において研修会第1部実務者連絡会企画プログラムを開催する。

日時：平成18年11月 9日（火）午前10時15分～午後12時00分

場所：府中グリーンプラザ（東京農工大学）

議題：I. 講演

- ・大学と労働安全衛生マネジメントシステムについて
中央労働災害防止協会 井本邦彦

II. パネルディスカッション

「大学等の労働安全衛生に関わる課題と問題点について」

コーディネーター：理研 吉識 肇

パネラー：秋田大 武藤、愛知教育大 榊原、京都大 真島、
筑波大 荒井、名古屋工大 箕浦

III. 実務者連絡会総会（午後 15 時 00 分～15 時 30 分）

- ・ 平成 17 年度事業報告及び決算報告
- ・ 平成 18 年度事業計画及び予算案
- ・ 平成 18 年度実務者連絡会功労賞の授与について
- ・ その他

・ 実務者連絡会企画プロジェクト（18 年度）

1. 「特殊廃液処理施設理解推進プロジェクト」

代表 新潟大学 大泉 学

2. 「大学等における労働安全衛生改善事例の収集と共有化プロジェクト」

代表 愛知教育大学 榊原洋子

・ 平成 19 年 3 月 実務者連絡会会報第 9 号発行

平成 18 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会予算執行計画

平成 18 年 11 月 9 日

事項	予算額	明 細	備考
(収入)			
前年度繰り越し	円 614,081		
実務者連絡会活動費	300,000		大学等環境安全協議会より
預金利息	0		
収入計	914,081		
(支出)			
第 8 回実務者連絡会	円 65,000	60,000	講演謝金
		5,000	功労賞記念品代 1 名
会報	180,000	130,000	会報印刷代 (会報第 9 号、150 部印刷)
		50,000	会報送付代
プロジェクト経費	400,000	200,000	1. 「特殊廃液処理施設理解推進プロジェクト」
		200,000	2. 「大学等における労働安全衛生改善事例の 収集と共有化プロジェクト」
銀行手数料	0		
予備費	269,081		
支出計	914,081		

「18年度大環協実務者プロジェクト報告」

大学等における労働安全衛生改善事例の収集と共有化プロジェクト ー特に、有害物質等を取扱う現場を中心とした衛生管理技術向上のためにー

プロジェクト代表
榊原洋子（愛知教育大学）

1. はじめに

2004年国立大学法人化に伴い、大学等の教育研究機関においても労働安全衛生法による管理体制などが整備されつつある。しかし、別の側面として大学等教育研究現場には特有な事情もあり、法規制条項に従った改善策を講じにくい事例なども顕著になっている。

特に我々実務者が抱えている問題は、それぞれが所属している大学等教育研究現場における労働安全衛生の確保のための具体的な対応についてであろう。

労働安全衛生コンサルタント等の専門家や労働基準監督署に指摘された課題や衛生管理者が巡視等により見いだしたさまざまな課題について、適切な解決策を講じなければならない。しかし、学内の立場によって多様な解釈が示されることでまもらない事項や、そもそも法規制条項自体が学内の合意形成を困難にしている指摘もあり、課題解決を願う実務者には大きな負担となっている。

各教育研究現場での具体的な改善事例などを収集し、それらの情報が所属組織を超えて共有されることで、各大学等における衛生管理の現場力向上に役立つのではないかと考え、本プロジェクトを立ち上げた。

2. 目的

本プロジェクトの目的は、各大学における衛生管理の現場力向上のための情報収集と共有化である。

まず、大学等教育研究機関において衛生管理者が巡視等により見いだした課題、及びその問題解決のために講じた方法等改善事例を収集する。また、「安全の手引き」発行や安全点検等のマニュアル作成などの独自企画や、課題や問題点を認識しながらも適当な解決策が見出せていない事例等を集約する。

そして、大学等には多種多様な作業現場があるが、今回はまず、有害物質を取扱う現場を中心とした問題点を収集して、多くの大学が共通する問題整理していく。その作業を進めつつ、それらの有効な情報が所属組織を超えて共有化できる手段を検討していきたい。集約された情報が、各大学での課題の早期発見、合理的な改善に寄与できる可能性は高いと考えられる。

3. 展開

2006年	8月31日	プロジェクト申請
	11月8日	プロジェクト採択
	11月22日	有志プロジェクトメンバーによるメーリングリスト設置、アンケート調査についての検討（メールによる）
	12月21日	調査用紙の発送、調査用URLの設置
～2007年	1月31日	改善事例情報等の収集、編集方針等に関する意見交換
	2月16日	編集方針の決定、編集作業開始、労働安全衛生意見交換会

～2月28日 情報の共有化に関する意見収集

～3月31日 事例集の発行、送付

4. 実施内容および課題等

(1) アンケート調査について

○調査紙配付：84件

(実務者連絡会名簿の中から)

(2) 安全衛生に関する情報の共有化についての検討について
ら、大学等教育研究機関の実務者を抽出)

○回答のあった機関：32件 (回収率 38.1%)、

改善事例 27事例、企画事例 43事例

課題、問題点 11のカテゴリーに分けて整理した

* 下線数値は、冊子編集後に回答を受けたため、事例集末尾の数値を修正してある

○調査結果のまとめ：「大学等における労働安全衛生改善事例集」として発行

○プロジェクトメンバーによる意見交換（メーリングリストによる）

○意見交換会（2007年2月16日、場所：愛知教育大学）

*詳細は、次年度実務者連絡会等で報告したい

(3) 課題、反省

○冊子発行について

- ・ CD-R 作成も検討したが、情報公開等への検討が十分に至らず、紙媒体での発行とした。冊子作成についても、否定的な意見があった。今後、検討を要する。
- ・ 予算等の都合により、150部（100頁）印刷となった。
- ・ 情報提供の際には「匿名可」などを明記の上収集したが、情報自体を掲載しなかったものがある。
- ・ 匿名情報等については、プロジェクト代表が仲介役を担う（2007年度のみ予定）

○情報の共有化について

- ・ 情報の公開については、機関・担当者などによる温度差が大きい。
- ・ 情報の共有化推進には、さらに議論が必要。
- ・ 今回の成果（事例集）をもとに、議論やさらなる発展を期待できる。
- ・ 情報の共有化は現場担当者の活動を広げ、共通課題を協同的解決に導く可能性が高い。

*詳細は、次年度実務者連絡会等で報告したい

5. 今後の展開

本プロジェクトは、大環協実務者連絡会のみなさまのご協力により、実現することができた。

今回は、大学等における安全衛生に関する有効な改善事例・企画事例集の作成までにとどまったが、これらを私たちの第一歩とし、本事例集の情報をもとに、大学等所属機関の枠を超えた連携協力を深め、それぞれの現場に役立つ『情報の共有化』が推進されることを期待する。

◎プロジェクトメンバー

武藤 一（秋田大）、荻野和夫（群馬高専）、長谷川紀子（東工大）、榊原洋子（愛知教育大）、箕浦寿樹（名工大）、鈴木一成（浜松医大）、太刀掛俊之（大阪大）、坂下英樹（広島大）、濱井盟子（愛媛大）、田中雅邦（岡山大）、藤田智紀（熊本大）

「18 年度大環協実務者連絡会プロジェクト報告」

特殊廃液処理施設理解推進プロジェクト

代表 新潟大学 大泉 学

1.はじめに

廃液等の廃棄物処理も学内施設による処理から、外部処理業者による処理処分委託が多くなってきている現状において、委託時における適正処理確保に苦慮されている大学等もあるように聞きます。また、廃棄物が専門業者によってどのように処理されていか理解し、学内への周知を図ると共に、業者と大学の相互理解を進めることが廃液処理に携わる実務者の業務として重要になっているのではないかと考えます。しかし、個々の大学で、多数有る処理業者の情報を得ることは容易ではありません。そこで、プロジェクトでおこなったの現地視察等の情報を示すと同時に、各大学で得た情報をどのようにしたら全国的に共有し得るかを検討することとしました。

2.活動内容

2-1 アンケートについて

各大学における学内施設での処理と外部処理の現状、委託処理処分先などについて 12 月アンケート調査を行いました。

実務者登録のある 57 校大学にお願いしましたが、29 校から回答をいただきました。

各大学複数の回答であり、汚泥・試薬の処理を含め中間処理業者として 54 の会社名があげられています。この中でご承知のように水銀回収処理の野村鉱産のほか、高濃度ハロゲン廃液については光和精鉱など、特定の廃液については複数業者から廃液が持ち込まれていることがわかりました。

最終処分については、63 箇所の記載がありましたが、埋め立て処分以外に汚泥や焼却残渣の光和精鉱での再利用との記載もめだちました。また、最終処分については、一中間処理業者からも複数の処分場に送られており、完全には追い切れていない部分も見受けられました。個々ので視察をすでに行っている大学の割合は中間処理施設では約 4 割に過ぎず、最終処分場に至っては約 1 割程度にとどまっています。一方で、処理委託先全ての中間処理施設を訪問している大学もあり、大学間格差も大きいようです。

2-2 資料収集について

野村鉱産、光和精鉱では、処理の特殊性から多くの大学の廃液等が処理されていることはアンケートでの説明の通りです。今回、光和精鉱と DOWA グループのエコパーク山陽の見学を行いました。また、今回訪問できなかった野村鉱産他の処理業者からも CD-ROM 等をいただいています。その他に今回のプロジェクトとは別に富山大学で 18 年度に集めた多数の資料の提供を戴きました。

これらの資料をまとめて、各大学に CD-ROM をお送りする予定です。

3.最後に

今回プロジェクトとして予算をいただき、大学等からの廃棄物の流れを調査し、処理会社を数社見学しましたが、ご承知の通り、大学からの廃棄物についても北海道から九州まで広く全国で処理されています。これらの処理施設を個々の大学等で訪問・見学することは、金銭的にもまた時間的にも困難な状況です。今回を期に、全国の各大学で近隣の廃棄物処理施設を見学し、それらの情報を提供し会う組織が整えられればと感じています。

技術賞候補者推薦のお願い

世話人 武藤 一・平 雅文

実務者連絡会に参加されているみなさまに、大学等環境安全協議会技術賞候補として適正な方を、自己推薦も含め、世話人に連絡下さるようお願いいたします。なお、次に掲載した協議会の「技術賞内規」と「技術賞受賞者」をご参照下さい。

・技術賞内規

第1条 本協議会に技術賞を設け、多年にわたり大学等における環境安全監理、教育、研究、医療等の諸活動に伴って使用される化学物質等の管理、及びその結果発生する有害な廃棄物の処理に携わり、または環境安全監理に欠くべからざる機械、器具ならびに試薬などの製造及びサービスの実務に従事して、廃棄物処理技術の向上及び環境安全施設等の管理運営に功績のあった者にこれを贈呈する。

第6条 前条によって推薦される者は、多年にわたり第1条の実務に従事し、本協議会個人会員のうちの技術系職員である者、又は団体会員及び賛助会員に所属する技術系職員である者とする。

受賞年	氏名	所属団体	受賞年	氏名	所属団体
1989	小森均平	名古屋大学	2000	園師比呂彦	香川大学
1990	岩崎隆昌	NEC環境エンジニアリング		平 雅文	高エネルギー加速器研究機構
	藤元数尊	岡山大学		本田由治	京都大学
1991	矢坂裕太	大阪大学	2001	木村利宗	同和工業
1992	井勝久喜	信州大学		田平泰広	長崎大学
1993	柏木保人	筑波大学		長谷川紀子	東京工業大学
1994	真島敏行	京都大学		若林和夫	東京都立大学
1995	奥墨 勇	埼玉大学	2002	荒井 智	早稲田大学
	小山健夫	早稲田大学		荻野和夫	群馬工業高等専門学校
	前田芳巳	琉球大学		田中雅邦	岡山大学
	渡邊広幸	NEC環境エンジニアリング	2003	吉崎佐知子	金沢大学
1996	梅本健志	鳥取大学		岩原正一	筑波大学
	亀田紀夫	北海道大学		山田剛志	NECアメニプランテクス
	小泉善一	玉川大学	2004	伊藤通子	富山工業高等専門学校
	首藤征男	熊本大学		佐藤延子	東北大学
	藪塚勝利	群馬大学		重里豊子	神戸大学
1997	市川良夫	姫路工業大学		西 利次	アサヒブリテック
	大泉 学	新潟大学	2005	小沢宗良	島根大学
	菅野幸治	山形大学		白川久栄	首都大学東京
	浜本健児	関西医科大学		川口 聡	(有)環境産業
	三品佳子	宮城教育大学		片山能祐	NECファシリティーズ
1998	城 義信	NEC環境エンジニアリング	2006	松原 滋	野村興産
	鈴木一成	浜松医科大学		吉識 肇	理化学研究所
	長井文夫	筑波大学		鮫島隆行	千葉大学
	宮下雅文	兵庫医科大学		澤村幸成	サンレー冷熱
1999	平田まき子	加計学園岡山理科大学			
	武藤 一	秋田大学			
	山岸俊秀	八戸工業高等専門学校			

第9回実務者連絡会の予定（案）について

世話人 武藤 一・平 雅文

第23回技術分科会第9回実務者連絡会企画プログラム（第一部）

日時：平成19年7月27日（金）午前10時～11時50分

場所：山形大学医学部大講堂

演題：1. プロジェクト報告

実務者連絡会プロジェクト「大学における労働安全衛生
改善事例の収集と共有化プロジェクト」

2. 技術報告（2題）

*実務者の方に報告を募集し、講演して頂く。

第25回協議会研修会第9回実務者連絡会企画プログラム（第二部）

及び総会

日時：平成19年11月29日（木）午前10時15分～午後12時

場所：京都大学

プログラム1

講演（2題）

プログラム2

討論会

第9回実務者連絡会総会

日時：平成18年11月30日（金）午後15時～午後15時30分

事業報告・事業計画等

みなさま方の中で、技術・事例報告、聞きたい講演などがございましたら、各世話人までお知らせ下さい。

【ファックス送信状】

平成 年 月 日

大学等環境安全協議会実務者連絡会世話人 平 宛
(Fax. 0298-64-1993)

平成19年度実務者連絡会名簿の変更と追加について

1. 変更・追加： 大学等名 _____
所 属 _____
氏 名 _____
連 絡 先：郵便番号 〒 _____
住 所 _____

電話番号 _____ , F A X 番号 _____

e-mail _____

2. 変更・追加： 大学等名 _____
所 属 _____
氏 名 _____
連 絡 先：郵便番号 〒 _____
住 所 _____

電話番号 _____ , F A X 番号 _____

e-mail _____

実務者連絡会申し合わせ

平成 11 年 1 月制定

平成 15 年 11 月改正

1. 大学等環境安全協議会実務者連絡会(略して実務者連絡会)と称する。
2. 大学等において、廃棄物の処理に関与する技術者を中心とした、環境安全の実務に携わる会員(略して実務者)が、その連携を密にし、環境安全施設等の管理運営に関する諸情報を交換し、会員相互の資質の向上をはかることを目的とする。
3. 会員は、大学等環境安全協議会(略して大環協)の個人会員、団体会員または賛助会員に所属する者によって構成される。
4. 会員は主として実務者を対象とし、原則として教員、課長相当以上の者は入会出来ない。
5. 実務者連絡会は大環協内に設置し、適宜大環協に援助を仰ぐ。
6. 大環協担当理事は、大環協理事会によって決定され、世話人を兼ねる。
7. 実務者連絡会の代表は、大環協担当理事の互選によって決定し、会務を総括する。
8. 全国を6つのブロックに分け、各ブロックにブロック長1名、副ブロック長1名を置く。また、監査とホームページ作成委員を若干名置く。
9. 大環協担当理事以外の世話人を若干名置き、役員(正・副ブロック長、監査等)については、大環協担当理事・世話人のもと、会員の互選による。
10. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
11. 長年にわたり大学等において廃棄物処理等環境安全の実務に従事し、定年退職された方若しくは一年以内に定年退職見込みの方で、かつ、役員等により大学等環境安全協議会実務者連絡会に貢献があった方に実務者連絡会功労賞を贈呈する。
12. 平成 10 年度発足し、翌平成 11 年度より実務者連絡会を毎年開催し、会報を発行する。
13. 経費は、大環協で決められた範囲でまかなう。
14. 決算は、監事の監査を経て、実務者連絡会に報告する。
15. この会の内容は、大環協にて報告する。

平成19年度実務者連絡会役員

役 職 名	ブロック名	氏 名	大学等名
世話人（大環協理事）		平 雅文	高エネルギー 加速器研究機構
世話人（大環協理事）		大泉 学	新潟大学
世話人		武藤 一	秋田大学
世話人		鈴木一成	浜松医科大学
ブロック長	北海道・東北地区	亀田紀夫	北海道大学
副ブロック長	北海道・東北地区	武藤 一	秋田大学
ブロック長	関東地区	柏木保人	筑波大学
副ブロック長	関東地区	平 雅文	高エネルギー 加速器研究機構
ブロック長	中部・北陸地区	大泉 学	新潟大学
副ブロック長	中部・北陸地区	伊藤通子	富山工業 高等専門学校
ブロック長	関西地区	真島敏行	京都大学
副ブロック長	関西地区	重里豊子	神戸大学
ブロック長	中国・四国地区	田中雅邦	岡山大学
副ブロック長	中国・四国地区	平田まき子	加計学園
ブロック長	九州・沖縄地区	前田芳己	琉球大学
副ブロック長	九州・沖縄地区	田平泰広	長崎大学
監 査		吉崎佐和子	金沢大学